

旭陵

発行所
岐阜県立中津高等学校
同窓会

題字は田中栄吉学校長
タイトルバック 田口昌宏
(中津川市苗木 31回生)

創立百十周年記念号

創立百十周年記念事業のご案内

日時 平成二十七年十一月七日(土)～八日(日)
会場 中津高校・中津川文化会館・中津川にぎわいプラザ、ほか

青春の三年間を過ごし、私たちを育てくれた、我が母校中津高等学校がいよいよ今年、創立百十周年を迎えます。中津高等学校は、明治三十九年(1906)に創立され、以来百十年間、朝日直射すこの旭陵の地において約三万九千人以上の卒業生を輩出してきました。そしてその卒業生の活躍は各界においても

●創立百十周年記念式典・旭陵留学生ディスカッション
日時 十一月七日(土)午前九時半より
会場 中津高校体育館



写真・山田節子(27回生)
創立百十周年を迎えるにあたり、表記のように一部を記念式典・二部に「旭陵留学生によるシンポジウム」の開催を予定しております。一部では、ご来賓の挨拶をはじめ、感謝状贈呈等を挙行し、二部では、留学での貴重な経験や、現在の高校生に伝えたいことなど。また、地域社会が抱える課題について討論してもらう予定です。

尚、記念式典の総合司会には、某テレビ局のアナウンサーと、只今交渉中ですが、実現の折には、厳粛な中にも和やかな式典になるものと思えます。またシンポジウムのスーパースターとして、日本福祉大学国際福祉開発学部、中西哲彦准教授をお招きする予定です。

●ホームカミングデー
中津高施設見学会
日時 十一月七日(土)
午後二時半～午後二時
集合午後二時半 正面玄関前
同窓生や地域の方々に、中津高校内の施設を案内させて頂きます。

校訓の制定

創立百十周年を記念し、中津高校の校訓を同窓生から募集しています。
詳しくは2ページをご覧ください。

創立百十周年記念誌発刊

記念式典に配布できるように準備を始めています。百周年の翌年の平成十八年度から平成二十七年までの十年間の振り返りや新校舎の写真などを中心に編集します。

太陽光発電所完成 稼働中

中津川市茄子川の市所有地を借用して建設された旭陵太陽光発電所は平成二十五年六月十日より稼働し、順調に発電を続けています。平成二十六年九月二十四日現在、稼働日は471日を数え、85,577kwhの

●同窓生・在校生による交響詩「中津川」再演奏会
日時 十一月七日(土)午後三時開演(午後二時半開場)
会場 中津川文化会館 大ホール
入場料 前売り八〇〇円 当日一〇〇〇円(高校生以下無料)
中津高等学校百周年記念事業として、日本を代表する作曲家、池田晋一郎氏に委嘱された交響詩「中津川」を、残念ながら初演以来演奏される機会がほとんどありませんでしたが、百周年にあたり、池田氏ご本人による吹奏楽編曲版を、中津高校吹奏楽部OBと現役部員による一〇人バンドを結成し、記念演奏会を開催します。
つきましては、演奏者を募集しています。吹奏楽部に限らず、中津高校同窓生関係者から広く募集します。この貴重な機会に是非とも壮大な交響詩「中津川」を一緒に演奏しましょう。
尚、申し込み、問い合わせ先は、現吹奏楽部顧問高橋です。電話 0573-66-1361

末松安晴氏 2014年日本国際賞受賞



高校時代の同級生が、末松安晴氏の思い出を寄せてくれました。

末松氏は光ファイバーの研究で、日本のノーベル賞といわれる「日本国際賞(Japan Prize)」を受賞されました。

●末松安晴氏の思い出
住の者で年に三回の集まりを、同じ中津高同窓生の中電の田口修氏と丸栄の西戸登氏の協力で十年ほど続けたが、東京から末松氏にも参加してもらい、光ファイバーの研究のことなど聞かせて頂いたこともあった。
昨年は日本のノーベル賞といわれる「日本国際賞」という賞を受け、大変名誉なことだし、同級生としても喜ばしい。
今では、世界中で光通信が取り入れられているし、その基礎を築いた末松氏の功績は、謂うまでもなく大なるものがあると思う。東工大で光通信の道を歩み一貫して追究してこられた成果だと思ふ。
その受賞祝賀会に際して、市では桃山の子ども科学館に「顕

もう七十年前になるが、昭和二十年、恵那中学へ入学した年の夏頃、末松氏が美乃坂本の我が家へ来てくれた。何で学校の帰りに来られたのか思い出せないが、お袋の話では、坂下の米屋さんであった末松家と、我が家も精米業であったので組合で知り合いだったと聞いたことがあり、その関係で来られたと思うが、思い違いかもしれない。その時に、千日林の八幡神社

の入口の我が家の横で、何かの箱に座って写真を撮って貰い、アルバムに永く貼っていたが、今探しても見つからないのが残念だ。当時は珍しい、蛇腹のカメラだったことをはつきり覚えている。
ラジオなども自分で組み立てて聴いていたと聞いたことがあったが、小さい頃から工学系に興味があったことが、後の研究の原動力になったのではないかなと思う。
恵那中の一年生の頃はサッカー部に入り、末松氏と円陣で蹴りあったことも思い出した。中津高校に来てからも、サッカー部で活躍していた。
二十年ほど前になるが、恵那中二十年入学者で、名古屋地区在

同窓生・現職職員芸術展開催

日時 十一月七日(土)～八日(日) 開催時間 七日午前十時～午後六時 八日午前十時～午後四時
会場 中津川市にぎわいプラザ5F

●旭陵ゴルフコンペ
日時 十一月八日(日) 午前八時～午後四時半
会場 ユーグリーン中津川ゴルフ倶楽部



(詳しくは1ページをご覧ください)

●同窓生の交流 百十周年記念 合同同窓会
日時 十一月七日(土) 午後六時半開会
会場 パーティホール 全賓野
写真100周年記念 合同同窓会のスナップ

時代を超えて生き続ける「間翁」スピリット

中津高等学校同窓会会長

三尾 義彦(12回生)



同窓生の皆さん、お元気ですか。私も同窓会長を拝命して、早や十年になります。

県立中津高等学校の前身、町立中津高等女学校が一九〇六年(明治三十九年)四月に誕生してから、一〇〇年の時が流れました。江戸時代の中津川は中山道の主要な宿場町として栄え、商家、菅井家を始めとする多くの豪商を生み、彼らの活躍により養蚕、製糸、白木物(木曾の木製品)、海からの塩を始めとする海産物等の食料品を取り扱う商業、質屋等の金融業の産業が発展していま

や、世界中の情報がいち早く入手できたのでしよう。彼らは、産業を発展させる為には新しい産業の導入と教育の必要性を痛感したのでしよう。そこで彼等は、かの有名な渋沢栄一氏に要請して一九〇二年(明治三十五年)に待望の中央線が開通した機会に中央製紙を創業したのであります。そこで篤志家の間全右門翁は日露戦争の折りに自分の息子が一人も従軍できず忸怩たる思いがあったのでしよう。それで戦争の平和回復記念として、高等女学校の設立を決断されたのだと思います。

この愛国精神と郷土を発展させる思いが間翁のスピリット(精神ではないのでしようか。当時のお金で二、六〇五円(現在の価格で約一億二千万円)の土地と校舎、そして二十年間毎年三、〇〇〇円(現在の価格は一五〇〇万円)を寄付すると申し出られました。また、町の方々も一六〇〇円(約八〇〇万円)を寄付されて

学校が完成しました。当時の女学校は定員二〇〇名で校訓は二代目の佐々木喜一郎校長が「温良貞淑、質素、勤勉」と定められ、教育方針が確立されました。大正九年(一九二〇年)四月から岐阜県立中津高等女学校が発足し、定員が五〇〇名となりました。当時の女学校は四年制でした。創立十周年には堅型ピアノが、創立二十周年には間翁の銅像が、創立三十周年には校旗一流と同窓会館が記念事業として贈呈されました。その頃から日本は日中戦争から太平洋戦争へと突入し、戦時体制下の厳しい学生生活となりました。間翁の銅像も金属類供出運動で提供されまし

た。戦後六・三・三・四制の教育制度になり、中津「女子高等学校」はGHQの要請により昭和二十四年四月より、普通、商業、工業、農業の四つの学科を持った男女共学の県立中津高等学校となり、生徒数一三〇〇名、教員一〇〇

名余のマンモス総合高校となりました。現在の校歌の作詞は当時跡見学園の教授伊藤嘉夫氏に、作曲は当時の手島校長の同僚の岐阜師範学校の河野信一氏に依頼して校歌ができました。歌詞にある「高鳴るや黎明の鐘」は戦前の軍国主義から解放された新しい民主主義の幕あけを意味するものであり、「自由と個人の尊厳は全体主義を否定し、各人の自由と個人の生き方を尊重することの意味するもの」と思

います。「思索と自己の完成」(末見の我を見出で「光明と希望に燃えて」「新たな世の柱となり」これらの歌詞は新生中津高校生の生き方と目的を示したものであると思います。このような立派な校歌は我々同窓生を奮い立たせるものであり、新しい校訓もこれに準じるものが良いのではないでしようか。

間翁の郷土の繁栄と教育の目的はこの歌詞に内蔵されているのではな

く、蘇る人間の力を感じ、昼は鋳物職人を目指す雅夫、夜は法科に通う大学生の生活を始められますが、周囲に身体を壊すと説得されて、この生活を諦めます。

長を務められました。校歌作詞は数多く、乾先生の初任校であり、前任校である福井県立立農学校(現鯖江高校)校歌も乾先生のご紹介で伊藤先生が作詞され、昭和十一年に完成しています。岐阜県内では七宗町立神洲中学校校歌が中津高校から半年の、伊藤先生の作詞で完成したと伺いました。ちなみに作曲は信時潔さんです。余談ですが、お話を伺った神洲中学校古田校長から「私の母は中津高校の卒業生(六回生)です」とお聞きし、不思議な縁を感じました。

ご縁といえば、武蔵小金井にある「寺小屋」という家で伊藤先生が食事をされた折、なた豆の

作詞者伊藤嘉夫先生

中津高等学校長

田中 栄吉



この記事に関係することを少し調べてみました。伊藤先生は明治三十七年八百津町に生まれお父様が警察官という事情で小学校を九回転校し、ここ中津川で小学校を卒業されます。転校が多く友人が出来なかつたと述懐しておられるのですが、中津での小学校時代に席を並べた森田四季男さんは数少ない友人として長く親交をもたれたよう

です。森田さんは当時間家の番頭を勤められた方のご子息であり、東京帝国大学へ進まれ冶金工学の研究者として活躍されました。伊藤先生は小学校を卒業後、郁文館中学(小説猫)にある落雲館中学のモデルとなった旧制中学校へ入学されます。中学五年生のとき、関東大震災があり「瓦礫の原をあるいて私の若い感傷はいったんだ」と記されるほど心に痛手を受け、焼け原を歩き回ります。そのとき鋳物工場から聞こえる遅いフイゴの音と煙突から立ち上る夥しい白煙か



伊藤嘉夫先生

昭和十八年より二十九年まで、国語教師として本校に在職された乾英之介先生は、七十周年記念誌に伊藤嘉夫先生について「岐阜県出身であり、立正大学を卒業後、跡見学園に入り、同短大教授となった。文才家であり、林古徑、佐々木信綱(昭和十五年に中津高女で講演あり)の知遇を得、短歌は佐々木信綱の下にあつて、「心の花」の編集をした。「西行法師全集」が代表的著書になる。(中略)東京時代、同じ林武平の学寮に止宿し、同じ中学にも通っていたので、私のことは何でも聞いてくれたのである」と記されています。

校歌が完成しました。当時の女学校は定員二〇〇名で校訓は二代目の佐々木喜一郎校長が「温良貞淑、質素、勤勉」と定められ、教育方針が確立されました。大正九年(一九二〇年)四月から岐阜県立中津高等女学校が発足し、定員が五〇〇名となりました。当時の女学校は四年制でした。創立十周年には堅型ピアノが、創立二十周年には間翁の銅像が、創立三十周年には校旗一流と同窓会館が記念事業として贈呈されました。その頃から日本は日中戦争から太平洋戦争へと突入し、戦時体制下の厳しい学生生活となりました。間翁の銅像も金属類供出運動で提供されまし

た。戦後六・三・三・四制の教育制度になり、中津「女子高等学校」はGHQの要請により昭和二十四年四月より、普通、商業、工業、農業の四つの学科を持った男女共学の県立中津高等学校となり、生徒数一三〇〇名、教員一〇〇

名余のマンモス総合高校となりました。現在の校歌の作詞は当時跡見学園の教授伊藤嘉夫氏に、作曲は当時の手島校長の同僚の岐阜師範学校の河野信一氏に依頼して校歌ができました。歌詞にある「高鳴るや黎明の鐘」は戦前の軍国主義から解放された新しい民主主義の幕あけを意味するものであり、「自由と個人の尊厳は全体主義を否定し、各人の自由と個人の生き方を尊重することの意味するもの」と思

います。「思索と自己の完成」(末見の我を見出で「光明と希望に燃えて」「新たな世の柱となり」これらの歌詞は新生中津高校生の生き方と目的を示したものであると思います。このような立派な校歌は我々同窓生を奮い立たせるものであり、新しい校訓もこれに準じるものが良いのではないでしようか。

間翁の郷土の繁栄と教育の目的はこの歌詞に内蔵されているのではな

く、蘇る人間の力を感じ、昼は鋳物職人を目指す雅夫、夜は法科に通う大学生の生活を始められますが、周囲に身体を壊すと説得されて、この生活を諦めます。

長を務められました。校歌作詞は数多く、乾先生の初任校であり、前任校である福井県立立農学校(現鯖江高校)校歌も乾先生のご紹介で伊藤先生が作詞され、昭和十一年に完成しています。岐阜県内では七宗町立神洲中学校校歌が中津高校から半年の、伊藤先生の作詞で完成したと伺いました。ちなみに作曲は信時潔さんです。余談ですが、お話を伺った神洲中学校古田校長から「私の母は中津高校の卒業生(六回生)です」とお聞きし、不思議な縁を感じました。

ご縁といえば、武蔵小金井にある「寺小屋」という家で伊藤先生が食事をされた折、なた豆の

語圏へ一年間留学しました。また、同窓生による芸術展が、名古屋フィルハーモニー楽団によるドボルザークの新世界の演奏と、校歌をモチーフにした池辺晋一郎先生による交響詩「中津川」の作曲、演奏が行われました。私は百周年を契機として中津高校は「第二の建学」の時を迎えたものとして理解したいと思

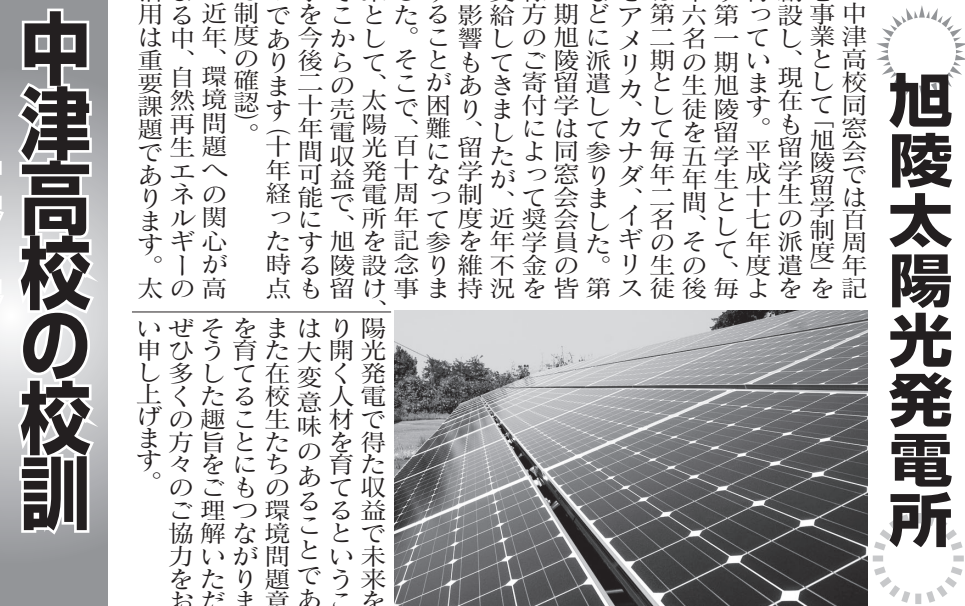
います。恵那北高校との合併、単位制就学制度、海外留学制度の続行、野球部の硬式化など、文武両道を目指す学校として大きく発展しています。

創立以来、中津高校の歩んできた道は決して平坦なものではありませんでした。忘れてならないのは、先人たちの大いなる遺産です。有為の人材養成を使命に常に高い志を持った学生や教員の姿がありました。時勢の進運に先じ世界の大勢を洞察して地域の発展に「地球市民」として自覚に基づく行動をしようではありませんか。その為の創立百周年記念事業としていろいろ企画されていますので、皆様のご協力を何卒よろしくお願

います。

創設し、現在も留学生の派遣を行っています。平成十七年度より第一期旭陵留学生として、毎年六名の生徒を五年間、その後は第二期として毎年二名の生徒をアメリカ、カナダ、イギリスなどに派遣して参りました。第二期旭陵留学は同窓会会員の皆様方のご寄付によって奨学金を支給してきましたが、近年不況の影響もあり、留学制度を維持することが困難になって参りました。そこで、百周年記念事業として、太陽光発電所を設け、そこからの売電収益で、旭陵留学を今後二十年間可能にするものであります(十年経った時点で制度の確認)。

近年、環境問題への関心が高まる中、自然再生エネルギーの活用は重要課題であります。太



旭陵太陽光発電所

中津高校同窓会では百周年記念事業として「旭陵留学制度」を創設し、現在も留学生の派遣を行っています。平成十七年度より第一期旭陵留学生として、毎年六名の生徒を五年間、その後は第二期として毎年二名の生徒をアメリカ、カナダ、イギリスなどに派遣して参りました。第二期旭陵留学は同窓会会員の皆様方のご寄付によって奨学金を支給してきましたが、近年不況の影響もあり、留学制度を維持することが困難になって参りました。そこで、百周年記念事業として、太陽光発電所を設け、そこからの売電収益で、旭陵留学を今後二十年間可能にするものであります(十年経った時点で制度の確認)。

近年、環境問題への関心が高まる中、自然再生エネルギーの活用は重要課題であります。太

母校中津高校の百周年記念事業の一つに「校訓の制定」事業が挙げられています。ご希望の方は、卒業年次とご氏名を明記されてメール(第十六号)で発表させていただきます。

「校訓」とは、「教育上の理念・目標を成文化したものの(広辞苑)」「教育上の基本的なモットーとして定めた教訓的な内容の言葉(三省堂新明解国語辞典)」、とあるように、その学校の教育理念を象徴する重い言葉であると思われ

ます。

私達同窓会として校訓の制定にどうかかわるかを話し合った結果、私達卒業生の誰もが馴染み深く、また含蓄・示唆に富んだ言葉が散りばめられていた中津高校校歌の歌詞の中から、同窓生の多数の意思で選んでどうかとい

うことになりました。ここに広く同窓生の皆さんに校訓の募集を行います。ご希望の方は、卒業年次とご氏名を明記されてメール、葉書、ファックス、記入した用紙を学校に直接届ける方法で、ご応募ください。電話は不可とします。同窓生から寄せられる中から多数に上った言葉を、同窓会全体の希望意見として校長先生に提出したいと思

います。五月九日の同窓会総会の席上で応募状況等の中間発表を行います。

校長先生は、さらに現職員や生徒たちの意見も参考になら、十一月の百周年までに中津高校の校訓を決められることと思われ

ます。応募の締め切りは、八月末日までとします

中津高等学校校歌

作詞 伊藤嘉夫

作曲 河野信一

一、高鳴るや黎明の鐘

自由と個人の尊厳

明けわたる日の光

朝日の直射す丘

その丘に我等集つ

二、天雲に恵那山聳つ

思索と自己の完成

遠白き学之道

未見の我を見出で

拓きゆく我等若し

三、太古より木曾川は行く

昼夜を止めざる流動

勤勞と自治陶冶

風土にはぐくまれ

新生の我等勤し

四、新たな世の柱となり

母校の名を顕わさん

光明と希望に燃えて

朝日の直射す丘

その丘に我等学べ

忙しい中、調査にご協力頂

いた皆さんに感謝し、校歌をこ

に掲載して筆を納めます。

バック写真・山田節子(27回生)

中津高等学校住所 508-0001中津川市中津川1088の2

メールアドレス kyokuryo@takenet.or.jp

ファックス番号 0573-65-2721

母校中津高校創立百十周年記念事業に向けて

記念事業にご参加と、ご協力を



創立百十周年
記念事業実行委員長
杉本 潤(20回生)

同窓会会員の皆様、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。中津高校同窓会会員の皆様には、OB会の目的の一つであります中津高校の歴史・文化を基盤に、在校生が高校生らしく、伸び伸び学べる環境整備への支援、その趣旨へのご協力、ご支援に心からお礼申し上げます。百周年には、財務委員長として皆様に変えて協力賜り、想像以上の式典、記念事業を行うことができましたことを重ねて感謝申し上げます。

さて、今回の百十周年の核の事業としては、式典及び記念事業の二つを企画、ご案内しております。

内容につきましては、既に企画案が提出されておりますが、百周年から継続している留学生への支援制度の構造を変えることとです。

この留学制度も十年が経ち、中津高校の特徴ある活動として今後も継続していくための資金を一部は支援者に依頼することなく制度を運用していくために、この度、創立百十周年の記念事業と致しまして、ソーラーシステムによる太陽光発電所を設置することを企画実施致しました。中津高校はこの地域で、素晴らしい街道文化と人の生業の歴史を重ねてきました。OB会も学校と一丸となって教育への助成を行い、今日の姿があると考えています。

今まさに新たな二十一世紀の街として生まれ変わろうとしているこの中津川に、先輩が残してくれた学校の文化と、培ってきた歴史を新しい風の中で増幅進化させ、これからは地域の代表校として歴史を刻んでいくべきすよう皆様のご理解ご支援をお願い申し上げます。



百十周年記念事業
財務委員長
定時制同窓会会長
佐藤 和男(定15回生)

寄付金の現状とお願い

平成二十七年の今年、私たちの母校・県立中津高等学校は、創立百十周年を迎えます。日露戦争後の明治三十九年、日本の将来を考え子弟の教育に注力すべしと、間李右衛門翁によって中津高等女学校として設立されて以来、大正、昭和、平成と四代にわたり、二万九千余名を世に送ってきた、歴史と伝統ある私たちの母校です。激動と混乱の時も、二度に渡る大火に見舞われた時も、母校は同窓生をはじめとする関係者各位のご尽力により、困難を乗り越えてきたのです。

現在、日本の抱える課題は、人口減少、エネルギー、環境、経済、財政、防衛、雇用、年金、医療介護、福祉、教育など多岐にわたります。これら今日の課題を解決できるグローバルな視点を持ち、積極性と実行力を兼ね備えた人材の育成は急務であります。その具体化として、十年前同窓会は百周年記念事業として「旭陵留学生奨学金制度」を導入しました。以来、三十八名の後輩たちがこの制度のもと海外留学をし、その経験を生かした活躍をしています。今では中津高等学校のなくてはならない教育事業の一つとなりました。

今年迎える百十周年記念事業の柱は、この「旭陵留学生奨学金制度」の長期継続であり、そのための「旭陵太陽光発電所」の設置であります。

この資金計画目標を二千五百万円とし、昨年四月より寄付金を募ってまいりましたところ、約九百名の同窓生の方々から約六百万円余のご協力をいただき、役員一同厚く御礼申し上げます。しかしながら、目標額達成にはまだまだ程遠く、記念事業の執行が危ぶまれるような現状にあります。折から景況も芳しくなく、消費税増税の余波も続いている経済情勢のところ、誠に恐縮ではありますが、ただただ同窓生の皆様のご理解とご協力におすがりするより他に道はなく、母校・中津高等学校のために、重ねて寄付金をお願いを申し上げます。

創立110周年記念事業スケジュール

財務委員会よりお願い

創立百十周年の趣意書と振り込み用紙を別紙にて再度同封致しました。寄付金はまだの方は、どうか記念事業に、ご賛同とご協力をお願い申し上げます。

平成27年
11月
8日(日)



☐ 記念式典 午前9時半～
☐ 旭陵留学生パネルディスカッション

●会 場：中津高校体育館
●出席者：来賓、同窓生、在校生、現旧職員

平成27年
11月
7日(土)

☐ 旭陵ゴルフコンペ 午前8時～午後4時半

●会 場：ユーグリーン中津川ゴルフ倶楽部
中津川市茄子川 TEL0573-68-6111

●参加者：同窓生、現旧職員
●参加費：未定
●参加目標：160名

※詳細は同窓会HPをご覧ください。
同窓会HP <http://kyokuryo.jp/>
HP検索→旭陵中津高校

☐ 合同同窓会 午後6時半開会

●会場：パーティホールパルティール(手賀野)
中津川市手賀野265 TEL0573-66-7788

●参加者：来賓、同窓生、現旧職員
●参加費：一人7,000円(当日受付にて)
●合同同窓会スケジュール
○午後5時半より受付
○午後6時半開会
○午後8時半閉会

合同同窓会・参加のお申し込みは：
お申し込みは、同封のハガキにてお申し込みください。

中津川駅前より送迎のシャトルバスが、午後5時より順次出ます

☐ ホームカミングデー(施設見学)

●集 合：午後1時半 中津高正面玄関、校内見学
●対象者：同窓生、地域の方

校内にてギター・マンドリンクラブの演奏会があります。

☐ 交響詩「中津川」再演奏会
〈演奏者・スタッフ募集中〉
開演午後3時～(開場2時半)

●会 場：中津川文化会館(中津川市役所隣)
●演奏者：吹奏楽部部員&吹奏楽部OB
●入場料：大人前売り800円(当日1,000円) 高校生以下無料

※演奏の申し込み、お問合せは：
吹奏部顧問・高橋俊和(32回生) まで

☐ 芸術展 11/7(土)、8(日) 7日(土) 午前10時～午後6時
8日(日) 午前10時～午後4時 ●入場料：無料

●会 場：中津川市にぎわいプラザ5F(中津川駅前)
●出品者：同窓生&現旧職員

※出展のお問合せは：田口 昌宏(31回生) Tel0573-62-0645まで

中津高等学校創立110周年記念事業															実行委員会組織																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
記念誌委員会															記念事業委員会					記念式典委員会 (兼合同窓会)					顧問					相談役					財務委員会																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
委員長 吉本龍司															委員長 吉川光彦					委員長 佐藤和男					顧問 吉川光彦					副委員長 横井 晃					副委員長 梅田 清雄					副委員長 今井 清雄					副委員長 千賀美紗子					副委員長 可児 力					副委員長 吉川 義康					副委員長 田島 雅子					副委員長 垣内 誠					副委員長 藤井 学					副委員長 古屋伊須呂					副委員長 加藤 良一					副委員長 上田 信義					副委員長 郷原 基幸					副委員長 荒井 秀明					副委員長 松田 幸博					副委員長 島崎 武志					副委員長 日下部 誠					副委員長 後藤さつき					副委員長 古井 幸二					副委員長 岩本 隆明					副委員長 吉村美津子					副委員長 佐藤 和男					副委員長 梅村 薫					副委員長 常田 順子					副委員長 阿部 武東					副委員長 藤井 四郎					副委員長 吉川 義康					副委員長 佐々木義人					副委員長 長尾 浩一					副委員長 朝日美智子					副委員長 吉田 真					副委員長 伊藤 幸夫					副委員長 山田 節子					副委員長 松田 茂生					副委員長 野村 幸博					副委員長 尾関 明美					副委員長 石原 豊					副委員長 波多野大輔					副委員長 吉本 龍司																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
校訓制定委員会															総務委員会					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局					事務局				

関東OB会だより

故郷を近くに感じて

母校の百十周年を迎える年に、五十年待ったリニア中央新幹線が着工の運びとなりました。関東と中津の距離が近くなることが期待されます。しかし、心が近くなるかどうか、今のことが試されていると思います。

母校が立地する中津川市では「中津川ふるさと応援隊」が創設され、関東からも応募が多く集まっているとのことです。母校、中津、岐阜県など緑の地との関わりが楽しめる時代に向う兆候と思います。岐阜県との関係においては、東京岐阜県人会に加盟し、更に東濃地区六校の代表間の交流により、親睦と情報交換を進めています。同窓生や母校の背景にある地域にも関心が行くところです。遠くに在りて想うものから、近くに感じて動く地へと変化して行きそうな気配を感じます。

三十年近くも続いた関東OB会は世代交代の時期を迎えています。

最近、会の「運営ガイド」を設定し、仲間を大切にする中で、地域と共に進む持続的な発展を確める形を織り込んでいます。

昨今課題となっている人口減を食い止めるべく尽力されている関係者をどのようにして盛り立て、母校や中津川市、更には岐阜県を発展させるのか。運命のいたす故郷同窓となった私達が自分の出来る形で、親戚とか幼馴染みが暮らす故郷の発展にどの様にお役に立てるのか。この機会に考えてみましょう。

緑深き中津に相応しい自然エネルギーに着目したアイデアにより、日本の中でもユニークな留学制度を継続的に支える機会を得たのは嬉しいことです。母校あつての私達であり、同窓生が守るふるさと中津川市であると云う感謝の念を、募金の形で示す刻ではないでしょうか。

様々な理由で故郷を離れた私

関東OB会会長

石黒廣洲 (13回生)

達の気持ちと志が後押し出来ることで、母校が、益々魅力ある学校になって行つて欲しいと願うものです。

二〇一四年十月三十日



2014年関東OB会総会・懇親会で乾杯する青山中津川市長

関西旭陵会

創立百十周年記念に向けて

関西旭陵会会長

加藤紘一 (10回生)

母校も創立百十周年、一世紀を超えて社会環境の変遷も大きかったこの時代、多くの卒業生が巣立ち、各地で活躍し社会に大きく貢献してきました。まさに誇れる歴史です。

故郷にそして母校に愛着を持ち、その発展を願う心は大切で、素晴らしい自然環境に恵まれた故郷と、歴史ある母校は同窓生の心の支えとなっているはず。母校への思いを、この節目の年を契機に新たに深めて、記念の年に行われる一連の行事などに関心を深め、積極的に協力参加し共に祝いましょう。

母校には今後も更なる発展と活躍を期待しています。母校に対する誇りあるいは愛着が強くあつてこそ、同窓会活動などへの理解協力も進み参加意欲も増すものと言えましょう。このためには母校の活躍は重要な要件となります。関係の皆様のご理解と努力が必要です。特に

地元に在住の同窓生の皆様には特に多くを期待しています。肝心の地元において母校が尊重されて、みなで盛り立てようとする強い意識があつてこそ、母校の発展と地元の発展が期待できるのではないでしようか。

関西旭陵会では、平成二十七年の行事として、百十周年記念行事の意味を込めた「歴史散策会」を開催する予定で準備中です。追つて計画詳細をお知らせ致しますが、一人でも多くの方々に参加いただきたいと思います。また、現在事情により一時休眠中の当会ホームページも、これを機会に一新し、ますます深化するネット時代のふさわしい同窓会活動の運営の在り方も考慮して、新たな内容で再開する予定です。関係の皆様のご理解と御協力をよろしくお願い致します。



2014年関西旭陵会総会で記念写真

編集後記

編集委員長 吉村美津子 (24回生)

今回の旭陵発行の目的は創立百十周年記念事業の詳細を皆様にお知らせする事と、百十周年記念事業の為の寄付金を再度お願いする事にあります。そんなためか編集後記が中々書けなくて印刷の方に迷惑を掛けてしまいました。編集後記を書く事が出来たのは若いママの一言でした。「うちの娘、今年、中津高校に入学しました。旭陵留学生になりたくて受験したので、でも、留学生希望の子が大勢いて狭き門なんです。大変だけど夢に向かって頑張っています。」と、とても嬉しい言葉です。この言葉を伺って私も編集委員の役割を確認できました。

また、各支部の旭陵会へ向うと、同窓生の皆様から中津高校を想う心を通じて人として大切な事を教えて頂きます。中津高校を目指して下さる次代を担う若者達を先達である私達が応援しようではありませんか。

ホームページ委員長 松田幸博 (33回生)

同窓会のホームページと言っても、ネタ集めも思うように行かず、編集委員の皆様や先生方にも迷惑の掛け通しで今に至っているような状況です。スマートフォンやパソコンなどは当たり前のよう毎日使い、情報を得たりネットショッピングをしたりしますが、同窓会のホームページもそんなと見て頂ける方も大変少ないのが現状です。この「旭陵」が送られてくると、少しばかり懐かしい気分が現れながら母校出身者の活躍や、中津高校の変遷を楽しみに目を通すのですが、情報発信の手段として、「旭陵」とはカラーの違うホームページをどう育てて行ったらと日々悩んでいます。皆様の中津高校での思い出や同窓会での友人や恩師との再会、最近の出来事などごいまいし、懐かしい気分になれる、そんな「ほ」とするホームページを皆様と共に育てて行きたいと思っています。

名古屋支部だより

同窓会の絆

名古屋地区会会長

古井良平 (7回生)

名古屋地区会の趣旨は、明解です。故郷を離れて、この地域に念願の住居を構えた方々が、心おきなく語り合える会であり、唯一心休まる憩いを目的にした場とした同窓会として隔年に開催しています。

年齢の幅を超えた、故郷の村や町の小中学校を同じにした出身者、クラブの先輩・後輩に何十年振りにお会いできた時の感動です。

多分この会に参加しなければ、一生お会いすることが無かつたとか、思いの方との出会い、それが「同窓会」です。

特に岐阜・三重から参加の級友や先輩・後輩に会うと子供のころや学生時代の記憶が鮮明によみがえつてきて、懐かしいという感情にひたることが出来るのも不思議さであります。この機会に懐かしさを持ち出して感じるの、心が非常に和んでいく証拠だと思っています。

その昔自分が接した何かを思い出して、肯定的に考える一瞬だから、満足感になるかと思ひます。お互いこれまでの人生は、特に知らない土地で居住した苦労は、自分だけでなく、皆さんとて人一倍だったでしょう。紆余曲折で波瀾万丈を耐え、社会の過酷な荒波を乗り越えられたでこそ今日があります。

辛いときも決して、里の両親親友にも打ち明けられず、辛さを味わいながら、やっとなんかできて、一息何かしらの心に余裕を感じた年齢となり、自然に参加出来る心境に辿り着いた方々の集まりで良いのです。

これ迄の人生が知恵の宝庫であり、懐かしいという、成熟度の高い豊かな人間的感情に浸る事が出来る唯一の場(会)でもあります。

参加者からパワーやエネルギーを感じ取れる会と致しますので、二年後を楽しみにして



↑校歌斉唱 昨年の名古屋地区会にて講演される舟橋龍秀氏(21回生)→「認知症を知る」

平成二十六年 中津高校同窓会総会

平成二十六年度同窓会総会が去る平成二十六年五月十日(土)に中津川商工会議所ホールにおいて開催されました。平成二十五年活動報告、各支部報告、決算報告、二十六年度予算案の承認、旭陵留学説明などが議題として提案され、無事承認されました。

特に、今年の総会では太陽光発電の稼働状況報告と来年度に近づいた百十周年記念事業についての事業内容の説明・報告、現在の状況、寄付金募集等について説明と質疑応答、そして意見交換がなされました。

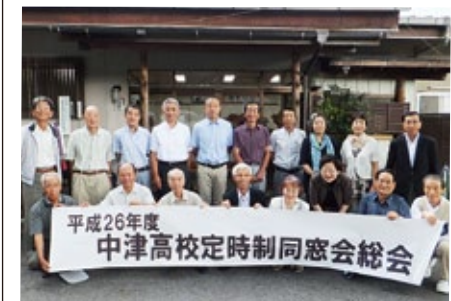
太陽光発電については順調に発電し、予想以上の売電収益が上がついているという報告がなされました。平成二十七年旭陵留学生からこの収益によって奨学金がまかなわれます。百十周年記念事業については事業の概要の説明が行われ、その中でも校訓制定について多く意見が出されました。制定の趣旨としては生徒の視点に立つて中津高校を象徴的に表す言葉がほしいというものでした。それに対して、制定の必要性、制定の方法についての意見が出されました。校訓は後々まで中津高校の象徴となる文言なので、拙速に話を進めるのではなく、多くの方の意見を聴きながら、同窓生の方も



平成26年度中津高校同窓会総会
〈平成27年度同窓会総会開催日程〉
平成27年5月9日(土) 午後5時より(予定)

平成二十六年 中津高校定時制 総会を開く

平成二十六年度定時制同窓会総会が七月十九日(土)開かれました。参加者は学校関係を含め十八名。議事の中で副会長に鶴飼俊之さんの就任が決定。次回総会は平成二十七年七月十八日(土)午前十一時と決定。定時制部活動を応援する会について、中嶋副校長より、同窓会と楽団「是より木曽路」からの寄付金八万円が、バトミントン部全国大会出場などに活用されたと報告がありました。



平成26年度中津高校定時制同窓会総会記念・星ヶ見荘



編集委員

顧問	三尾 義彦 (12回生)
	常田 順子 (14回生)
編集委員長	佐藤 和男 (定15回生)
編集委員	吉村美津子 (24回生)
H P委員長	松田 幸博 (33回生)
委員	梅村 薫 (12回生)
	阿部 武康 (14回生)
	吉川 義康 (18回生)
	佐々木義人 (23回生)
	長尾 浩一 (24回生)
	朝日美智子 (25回生)
	山田 節子 (27回生)
	吉田 真 (27回生)
	伊藤 広忠 (28回生)
	野村 充久 (35回生)
	尾関 明美 (39回生)
	波多野大輔 (48回生)
	石原 豊 (49回生)
	吉本 龍司 (52回生)
教員	藤原 高 (23回生)
	松本 詠史 (30回生)
	高橋 俊和 (32回生)
	小栗 和成 (34回生)

発行 平成二十七年三月
岐阜県立中津高等学校同窓会
〒508-0001
中津川市中津川一〇八八の二